

## 大阪大学経営協議会（平成25年度 第3回）議事要旨

日 時 平成25年11月25日（月）14時00分～16時00分

場 所 大阪大学中之島センター 9階会議室1・2

出席者 平野総長（議長）

大竹（伸）、川島、河田、川名、小林、近藤、佐藤、城野、竹内、野村、森  
恵比須、東島、馬場、相本、大竹（文）、尾山、岡村、木村、掛下、金田、八木、  
森崎 各委員

欠席者 角、手代木、中村 各委員

議事に先立ち、会議開催に必要な定足数を満たしている旨の報告があった。  
続いて、前回（9月10日開催）の議事要旨については、既に各委員に照会し、内容を確定して本学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

### 議 事

#### 【議事】

##### 1 理事補佐の指名について

平野総長から、資料3に基づき、平成25年11月1日付けで新たに理事補佐を指名した旨の報告があった。

##### 2 平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果について

恵比須理事から、資料4に基づき、平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果の概要等について説明があった。

##### 3 平成25年度年度計画の変更について

恵比須理事から、資料5に基づき、「産学連携による実用化研究開発の推進（大学に対する出資事業）」事業の実施に伴う、平成25年度年度計画の変更について説明があり、審議の結果、これを承認した。

##### 4 平成25年度予算補正（第1次）（案）について

大竹理事から、資料6に基づき、収入見込額の増減差額を支出予算に反映させるための予算補正案について説明があり、審議の結果、これを承認した。

##### 5 平成25年12月期の賞与について

尾山理事から、資料7に基づき、平成25年12月期における教職員の賞与の支給基準

等について説明があり、審議の結果、これを承認した。

## 6 平成25年12月期の役員賞与について

平野総長から、平成25年12月期の役員賞与について、役員報酬規程を基に役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案したうえで支給することとしたい旨の説明があり、審議の結果、これを承認した。

## 7 教職員の給与等について

尾山理事から、資料8に基づき、人事・給与システムの柔軟化施策として、①教員への年俸制の導入（期間の定めのない雇用、65歳定年制）、②クロス・アポイントメント制度の導入、③短期間勤務制度の導入について、それぞれ説明があり、審議の結果、これを承認した。

なお、委員から以下のような意見があった。

- ・ 教員の年俸制は、競争原理を導入する良い施策であるが、若手教員を対象とした同様の制度も検討してはどうか。
- ・ 見識ある人材育成のためには、研究者を一定期間外部に出し経験を積ませることも必要であるが、このような観点からもクロス・アポイントメント制度を有効に活用していただきたい。
- ・ 国際的に優れた研究者の雇用は多額の経費が必要となり、お金のない部局ではこの制度を利用できない。グローバル化推進教授招へいプログラムのように、本部が一部でも経費負担できるような仕組みも検討する必要がある。

### 【意見交換】

#### 1 前回までのご意見に対する対応状況について

恵比須理事から、資料9に基づき、前回及び前々回の本協議会で学外委員からいただいた提案や助言に対する現時点での対応状況について報告があった。

#### 2 グローバル時代の大学教育について

東島理事及び大竹理事から、資料10に基づき、大阪大学における教育の国際化に関する取組、及び、その財務基盤となる未来基金に関する取組及び受入状況等について説明があった後、意見交換を行い、学外委員から次のような意見があった。

(教育の国際化に関するご意見)

- ・ 大学改革のキーワードとなる大学間連携に関し、これまでは私立大学を取り込んだ取組が少なかった。留学生の招致活動を私大と共同して開催することや留学生寮の共有などを検討してみてはどうか。
- ・ 様々な取組を積極的に行っていることはわかるが、他大学でも同様の事例が数多くあり、もっと大阪大学らしさを打ち出すことが必要である。企業が求めるグローバル人材とは、英語だけではなく、多様な価値観を理解する人間性を有し、精神的にも強い人材

である。そのような人材育成を入試改革も含めて取り組むことで、大阪大学ブランドの確立にも繋げられるのではないか。

- ・ グローバル＝英語教育だけではなく、まずは母国語でしっかり考え、それを発信する力を育てることが重要である。そのような力を養うため、学生に国際シンポジウム等に参加する機会を提供するなどしてはどうか。
- ・ 世界トップ 10 の夢を実現するためには、何かを成し遂げようという高い志を持った若者を育てなければならない。
- ・ 外国語学部でインドネシア語等の教育を行うにあたり、英語による研究成果の発表ができるよう英語教育も併せて行うことが、国際的に活躍する研究者を育成する上では重要である。
- ・ 様々な取組を進めるにあたっては、大学構成員が疲弊しないよう、人を含めた支援も必要である。
- ・ 異なる文化のバックグラウンドをもった人材を役員等として活用することも検討していただきたい。

(未来基金に関するご意見)

- ・ 私立大学の取組などを参考に、愛校心に訴えかける方法の検討や、大学教職員だけでなく企業等で募金活動を専門に行う人材を活用してはどうか。
- ・ 大学への寄附の増加を図るには寄附税制の規制緩和が必須であり。政府が大学改革と経済再生を重視している今、要望活動を行う良い機会ではないか。
- ・ 企業から産学連携の形で受け入れたり、父兄、卒業生から得られる寄附は、多くが学部に対するものであるため、大学全体としての未来基金はなかなか増えないのではないか。100 億円の目標を達成するためには、目的のあるものを除き、未来基金に一本化することや、基金で設立したベンチャー企業からの収益を基金に還元させる仕組みなどを検討してはどうか。

## 【その他】

### 1 次回経営協議会の開催予定について

平成 25 年度第 4 回の本協議会について、平成 26 年 3 月 18 日に開催する旨の報告があった。

(以 上)